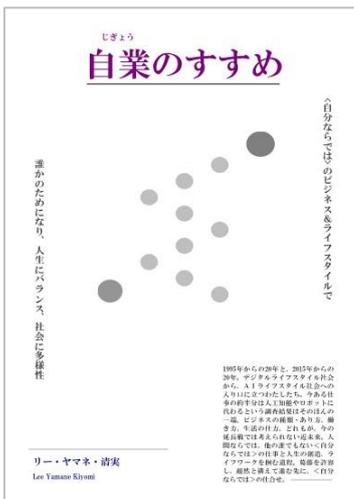


2019年8月1日

3年たったの所感・追録



『自業のすすめ』（2016年4月）
「自業」は〈じぎょう〉、自分なら
ではの仕事で誰かの役に立ち、自分
も活きるいき方。

バランスよく、自分をいききる

2016年4月にホームページへ掲載した『自業のすすめ』。この時点での学びの総ざらいの一つとして、また、未来を探究する〈自業家〉の何か参考になればと、アウトプットしたものです。

サイトにアップしただけでそのまままきていますが、先日あえて紹介することがありました。20代半ばの若い方で、近い将来の独立をめざしています。今後の何かのヒント、前途への一つの励ましになればと思ったのでした。

その際にざっとファイルを見なおしたのですが、こういう時はかならず自分の稚拙さに思い知るので、書き直したい衝動にかられました。3年経った意味がそこにあるのかもしれませんが。

そう、3年経った今の世の中、世界の動き、時代の流れをみると、〈アンバランス〉がさらに進み、そんな社会環境の中で〈バラ

ンス〉よくいきるためには、やはり「自業」を志向するしかないとあらためて感じます。

これからの世界は「一握りの主とそのた大勢の召使の構造になる」と言った人がいましたが、「GAF A」に問題意識が高まり始めたのは、その現実が目に見えてきたからでしょう。

少々の軌道修正はされつつ、ただ大きな流れは誰にもとめられない。けっして悲観してのことではなく、『歴史は繰り返す』ではありませんが、人間社会がつくりだすものには一定の規則的があるのではないのでしょうか。

世の中がどう転んでも、あまり惑わされず、ストレスをやり過ごし、自信と誇りつまりは「**自負**」を内に宿して、**価値観を共有する人の役に立つ仕事を創り、自分を生きる**。『自業のすすめ』が願うのはそんなあなたの姿です。

〈自分ならでは〉を紐解く先に、さとり

「**命道**」という言葉があります。「自分自身の本質や宿命に立脚して見つけた人生の道」を意味するそうです。

また、「**真の適職**とは本能的な動きの対象。心からわきおこる、とめようのない活動」とか。

よく引用する「**モンテーニュ**」の言葉に、「自分をこまかく観察する能力があれば自身にとってひじょうに良い教育材料になる」があります。

ある意味『自業』は、「命道」を「真の適職」をもって人生を全うしようというもの。そのためにもまずは自分自身をよく知ること

が肝心、観察が鍵。自分では当たり前すぎて見逃しがちな思考、感情、言動に意識をむけてみれば、根底に一貫した資質。自身に開眼する感覚になるものです。

自分に開眼するという事は、他の人の〈自分ならでは〉にも想像力が働き、観察の目が利いてくるといふこと。認識を新たにすること多々で、学びも深まるはず。

学びが深まれば、そのうち至る境地は「諦観」。前向きな諦め、ひとつの「悟り」。自分一人が何もかもできるわけではないけど、自分だからできることがある。そう想えるあなたの心は無理なく自然に、マインドフルネス。